

2014 年（平成 26 年）6 月発刊の本誌増刊号「脳卒中の作業療法—支援技術から他職種連携・制度の利用まで」は好評につき品切れとなった。この背景には、今も変わることなく脳卒中対象者にかかわる OT が多いこと、そして脳卒中の作業療法の実践において日々もどかしさを感じている OT、特に若い OT が大勢いるということが推測される。

先の増刊号発刊から 7 年余り。この間には、診療報酬・介護報酬の改定があった。2015 年（平成 27 年）6 月には日本脳卒中学会より「脳卒中治療ガイドライン 2015」が、本年 7 月には「脳卒中治療ガイドライン 2021」が出版される。日本作業療法士協会は、「作業療法ガイドライン（2018 年度版）」を発行し、2019 年 4 月には疾患別ガイドラインである「作業療法ガイドライン—脳卒中（第 1 版）」を発行した。その他にも、周辺技術の発展に伴い、新たなアプローチの開発や検討が数多くなされている。

脳卒中の症状やこれに起因する生活障害は対象者一人ひとり異なる。急性期、回復期、生活期といった時期によって利用可能な制度、作業療法が提供される場所、作業療法の目的や内容、量が異なる。先の増刊号に倣い、本増刊号でも可能なかぎり多くのテーマに触れたいという思いから、章立てや内容の大幅変更は実施せず、アップデート版というかたちでお届けするに至った。

この一冊が、脳卒中対象者にかかわるすべての OT にとって有益なものとなり、対象者の幸福のために、これからも脳卒中の作業療法が発展し続けることを祈る。

2021 年 7 月

著者を代表して

山梨リハビリテーション病院 佐尾健太郎